

特集

ちりゆきえ
知里幸恵生誕100年

知れる限りを、 生の限りを

「銀のしずく降る降るまわりは」

金のしずく降る降るまわりは」。

ご存じ、『アイヌ神謡集』の一節です。

今年、ヌプルベツ（登別市）で生まれ、この世にただ1冊の著書『アイヌ神謡集』を残し、わずか19歳という若さでこの世を去った知里幸恵の生誕100年にあたり、

今月号では、幸恵ゆかりの地・登別での生誕から『アイヌ神謡集』を世に送るまでの軌跡などを紹介します。



幸恵（6歳のころ）



登別の地に、生誕

知里幸恵は1903年（明治36年）6月8日、父・知里高吉、母・ナミの長女として登別市（ヌプルベツ 色の濃い・川）に生まれました。

弟には後の北海道大学文学部教授で、アイヌ民族の言語や神話、伝説などを研究し、アイヌ文化研究の基礎を確立した偉大な言語学者の知里真志保がいます。



母ナミ（左）・伯母（母の姉）金成マツ。姉妹は幌別に生まれ育ち、宣教師ジョン・パチラーらがつくった日本聖公会の函館アイヌ学校（通称愛隣学校）でローマ字や聖書を学んだ後、平取にある日本聖公会の教会に赴任します。



弟真志保